

## 「東新潟火力発電所 1・2号機リプレース計画に係る計画段階環境配慮書」に対する質問等への事業者回答

## 【 その他意見 】

No	環境要素等	その他	【事業者】回答
1	動物	計画段階環境配慮書4-35より、新潟市など近隣市町村で繁殖しているハヤブサの生息が確認されています。ハヤブサは高所に止まり、空間を移動する鳥類を見つけて高速で飛行して狩る行動を行うため、発電所を建設する場合にはバードストライク防止への配慮（反射ガラスの多用を控えるなど）が必要であると考えます。	当社火力発電所の現状は別紙のとおりであり、サービスビルやタービン建屋において窓が設けられているものの、その面積は小さく、反射ガラスは使用していません。 新設する建屋についても同様な設計を考えております。

## 【 質 問 】

No	環境要素等	質問等の内容	【事業者】回答
1	その他 （埋蔵文化）	①リプレース予定地の現在の標高（グランドレベル）はいくらですか。 ②リプレース予定地の地下は過去にどのくらいの深さまで掘削されていますか。 ③リプレース予定地の今回の掘削深度はどのくらいですか。	①リプレース予定地の現在の標高は約8mです。 ②リプレース予定地の地下は過去に約4m～8mまで掘削した実績があります。 ③リプレース予定地の掘削深度は最大約8m掘削することで検討しています。
2	大気	特殊気象 1 時間値の予測結果において、6号機と7号機の両方が稼働した場合の将来予測結果を、1 基の最大着地濃度×2+バックグラウンド濃度として計算しています。6号機と7号機間の距離は、資料を見る限り500mほどとかなりの距離がありますが、このような場合でも予測濃度は1 基の最大着地濃度を単純に2 倍するだけで良いのでしょうか。	今回使用したシミュレーションソフトは、特殊気象条件下における一つの煙源のみをシミュレーションできるソフトを使用しており、安全側として単純に2倍として評価しました。今後は6・7号機それぞれの煙源を一括でシミュレーションできるソフトの使用を検討しています。